



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月2日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6460 URL <http://www.segasammy.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長C00 (氏名)里見 治紀
 問合せ先責任者 (役職名)上席執行役員財務経理本部長 (氏名)大脇 洋一 (TEL) 03-6215-9955
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 平成29年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	194,706	14.9	26,812	74.5	25,245	63.1	17,762	△26.8
29年3月期第2四半期	169,501	9.9	15,364	167.5	15,475	163.8	24,251	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 20,747百万円(63.6%) 29年3月期第2四半期 12,685百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	75.78	75.62
29年3月期第2四半期	103.47	103.15

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	500,846	325,587	64.6
29年3月期	521,599	311,497	59.0

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 323,548百万円 29年3月期 307,764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	20.00			
30年3月期(予想)			—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	380,000	3.6	20,000	△32.3	16,000	△43.9	11,000	△60.2	46.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	266,229,476株	29年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	31,845,527株	29年3月期	31,841,869株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	234,385,877株	29年3月期2Q	234,393,482株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成29年11月6日にアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当日使用する決算説明資料とともに、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	169,501	194,706	25,204	14.9
営業利益	15,364	26,812	11,448	74.5
経常利益	15,475	25,245	9,770	63.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	24,251	17,762	△6,488	△26.8
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	103.47	75.78	△27.68	△26.8

遊技機業界におきましては、パチスロ遊技機市場において、新台の販売が低調に推移する傾向が続いております。また、パチンコ遊技機市場におきましては、一部の実績あるシリーズ機を中心に高い評価を受けるタイトルが登場してきております。今後の市場活性化に向けては、幅広いエンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境につきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の現世代ハードに加え、新世代ハードの普及による今後の市場拡大に期待が高まっております。PC向けゲーム市場では、Steam等のゲーム配信プラットフォームが拡大傾向にあります。アミューズメント施設・機器市場につきましては、ビデオゲームやプライズを中心に、施設稼働の向上やユーザー層拡大の兆しが表れております。

リゾート業界におきましては、訪日外国人数の伸び率は鈍化しているものの増加傾向にあり、ホテルの客室稼働率は引き続き上昇傾向にあります。また、観光立国の実現に向けて、『特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）』が国会で成立し、公布、施行されております。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,947億6百万円（前年同期比14.9%増）、営業利益は268億12百万円（前年同期比74.5%増）、経常利益は252億45百万円（前年同期比63.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は177億62百万円（前年同期比26.8%減）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	64,926	88,385	23,458	36.1
セグメント間売上高	262	365	—	—
売上高合計	65,189	88,751	23,561	36.1
営業利益	10,639	21,449	10,810	101.6

パチスロ遊技機におきましては、当第2四半期において、主力タイトル『北斗の拳』シリーズの新作『パチスロ北斗の拳 新伝説創造』等の販売を行い75千台の販売となりました（前年同期は81千台の販売）。パチンコ遊技機におきましては、人気アニメ『攻殻機動隊S.A.C.』をモチーフにした『ぱちんこCR攻殻機動隊S.A.C.』等の販売を行い、119千台の販売となりました（前年同期は75千台の販売）。

以上の結果、売上高は883億85百万円（前年同期比36.1%増）、営業利益は214億49百万円（前年同期比101.6%増）となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	97,829	101,552	3,723	3.8
セグメント間売上高	463	699	—	—
売上高合計	98,292	102,252	3,960	4.0
営業利益	9,143	10,137	993	10.9

デジタルゲーム分野において、『ファンタシースターオンライン2』のEPISODE 5の配信を開始したほか、スマートデバイス向けタイトルにおきましては、『オルタンシア・サーガ-蒼の騎士団-』、『ぷよぷよ!!クエスト』等の既存主力タイトルを中心に各種イベント等を実施し、堅調に推移いたしました。新作タイトルにおきましては、当社連結子会社の榊f4samuraiが開発、運営を受託している『マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』がセールスランキング等の上位にランクインするなど好調に推移いたしました。

パッケージゲーム分野におきましては、新作『ソニックマニア』がメタスコアにおいて、過去15年間にリリースされたソニックの新作タイトルの中で最高評価を獲得し、好調に推移しているほか、PCゲームにおいて前作が人気を博した『Total War』シリーズの新作『Total War: WARHAMMER 2』等を投入し、販売本数は865万本（前年同期は465万本の販売）となりました。

アミューズメント機器分野におきましては、プライズ機等の販売が好調に推移したほか、CVTキット『StarHorse3 SeasonVI FULL THROTTLE』の販売を行いました。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態において、プライズを中心に施設オペレーションの強化に取り組み、好調に推移したことから、国内既存店舗の売上高は前年同期比で101.5%となりました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『名探偵コナン から紅の恋歌（ラブレター）』の配給収入を計上したほか、玩具において、『アンパンマン』シリーズ等の定番・主力製品を中心に販売いたしました。

以上の結果、売上高は1,015億52百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は101億37百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	6,745	4,767	△1,977	△29.3
セグメント間売上高	27	5	—	—
売上高合計	6,773	4,773	△2,000	△29.5
営業利益	△1,312	△1,297	14	△1.1

リゾート事業におきましては、国内有数のリゾート『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、夏休み向け集客施策を実施したほか、宿泊利用の個人のお客様の来場が多く前年同期より来場者数が14%増となりました。なお、リゾート事業におきましては、前期において屋内型テーマパーク事業の開発・運営会社株式の一部売却等を実施したことから、減収となりました。

以上の結果、売上高は47億67百万円（前年同期比29.3%減）、営業損失は12億97百万円（前年同期は営業損失13億12百万円）となりました。

海外におきましては、Paradise Co., Ltd.との合弁会社であるPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が、平成29年4月に韓国初のIR（統合型リゾート）『パラダイスシティ』をオープンし、日本や韓国等の多くのお客様にご利用いただいております。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期におきましては、主にエンタテインメントコンテンツ事業の各事業分野が好調に推移したことから、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が平成29年5月12日に公表した平成30年3月期通期連結業績予想を超過しておりますが、平成30年3月期通期連結業績予想については、現時点では変更はございません。

今後の見通しにつきましては、エンタテインメントコンテンツ事業において、好調な上期に続き下期にも複数の新作タイトルの投入を予定している一方で、遊技機事業において、平成29年9月4日に「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則（平成29年国家公安委員会規則第9号）」が公布され、平成30年2月1日に施行されることとなったことから、下期以降の当グループの遊技機販売スケジュールは大幅に見直すこととなりました。

直近の型式試験の申請状況等に鑑み、通期の販売タイトル数及び販売台数は当初計画を下回る可能性が高いと考えておりますが、平成30年3月期通期連結業績予想については、遊技機事業における販売スケジュール等を精査し、業績予想修正の必要がある場合には速やかに公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)
該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)
該当事項はありません。

(修正再表示)
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(耐用年数の変更による影響)

当社は、平成29年3月31日開催の取締役会において、当社並びに首都圏に所在する一部のセガサミーグループの事業会社の本社を移転することを決議いたしました。これにより、前連結会計年度末において、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ887百万円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	137,494	118,128
受取手形及び売掛金	44,500	50,107
有価証券	65,203	67,507
商品及び製品	18,669	7,469
仕掛品	14,838	16,216
原材料及び貯蔵品	13,933	11,170
その他	29,805	28,360
貸倒引当金	△329	△247
流動資産合計	324,115	298,711
固定資産		
有形固定資産		
土地	23,740	23,757
その他(純額)	57,869	55,672
有形固定資産合計	81,609	79,429
無形固定資産		
のれん	10,807	10,057
その他	11,352	13,564
無形固定資産合計	22,160	23,622
投資その他の資産		
投資有価証券	69,845	75,061
その他	24,607	24,790
貸倒引当金	△739	△769
投資その他の資産合計	93,713	99,082
固定資産合計	197,483	202,134
資産合計	521,599	500,846

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	45,631	24,459
短期借入金	6,354	11,763
未払法人税等	2,950	6,694
引当金	7,324	4,705
資産除去債務	303	76
その他	50,001	47,251
流動負債合計	112,567	94,952
固定負債		
社債	32,500	25,000
長期借入金	44,500	34,823
退職給付に係る負債	3,303	3,064
資産除去債務	3,735	3,804
解体費用引当金	420	420
その他	13,076	13,193
固定負債合計	97,534	80,306
負債合計	210,102	175,258
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	117,521	117,500
利益剰余金	207,639	220,693
自己株式	△54,769	△54,774
株主資本合計	300,345	313,373
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,041	12,312
繰延ヘッジ損益	△71	△34
土地再評価差額金	340	340
為替換算調整勘定	△4,479	△2,880
退職給付に係る調整累計額	588	437
その他の包括利益累計額合計	7,419	10,174
新株予約権	303	562
非支配株主持分	3,428	1,477
純資産合計	311,497	325,587
負債純資産合計	521,599	500,846

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	169,501	194,706
売上原価	102,163	115,223
売上総利益	67,338	79,482
販売費及び一般管理費	51,974	52,670
営業利益	15,364	26,812
営業外収益		
受取利息	137	182
受取配当金	507	523
為替差益	597	—
投資事業組合運用益	159	377
その他	783	723
営業外収益合計	2,185	1,808
営業外費用		
支払利息	504	372
持分法による投資損失	539	2,269
為替差損	—	132
支払手数料	23	32
複合金融商品評価損	77	—
その他	929	567
営業外費用合計	2,073	3,375
経常利益	15,475	25,245
特別利益		
固定資産売却益	9,514	59
投資有価証券売却益	254	441
関係会社清算益	290	—
匿名組合清算益	1,087	—
新株予約権戻入益	801	—
解体費用引当金戻入益	5	233
その他	41	124
特別利益合計	11,994	859
特別損失		
固定資産売却損	1	0
減損損失	168	374
事業再編損	68	—
その他	117	96
特別損失合計	355	471
税金等調整前四半期純利益	27,114	25,634
法人税、住民税及び事業税	2,696	7,643
法人税等合計	2,696	7,643
四半期純利益	24,418	17,990
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,251	17,762
非支配株主に帰属する四半期純利益	167	227

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,502	1,266
繰延ヘッジ損益	△328	2
為替換算調整勘定	△5,731	1,371
退職給付に係る調整額	85	△150
持分法適用会社に対する持分相当額	△3,256	267
その他の包括利益合計	△11,733	2,757
四半期包括利益	12,685	20,747
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,786	20,518
非支配株主に係る四半期包括利益	△101	229

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	64,926	97,829	6,745	169,501	0	169,501
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	262	463	27	753	△753	—
計	65,189	98,292	6,773	170,255	△753	169,501
セグメント利益又は損失(△)	10,639	9,143	△1,312	18,471	△3,107	15,364

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△3,107百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,114百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	88,385	101,552	4,767	194,705	0	194,706
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	365	699	5	1,071	△1,071	—
計	88,751	102,252	4,773	195,776	△1,070	194,706
セグメント利益又は損失(△)	21,449	10,137	△1,297	30,289	△3,477	26,812

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△3,477百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,486百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更による影響)

「追加情報」に記載のとおり、前連結会計年度末において、本社移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は「遊技機事業」で272百万円、「エンタテインメントコンテンツ事業」で542百万円それぞれ減少し、セグメント利益又は損失の「調整額」に含まれる全社費用は、72百万円増加しております。